

# 恩賜林組合での一連の事業

---

来山会「ブロック研修郡内」富士吉田森林組合

# 工場見学（木質バイオマス）

- ▶ 主に富士山のカラマツ、赤松などの間伐材を利用
- ▶ 水分量は時期によって変わるが、12%まで乾燥機で落としペレット化する
- ▶ ペレットの冷却はその後の天ぷら火災を避ける目的
- ▶ 製品自体の水分は8%程度
- ▶ 樹木の成分で接着するので圧縮だけでOK
- ▶ 水に弱いので水に入れるとおが粉に戻る（接着剤を使っていない）



# 山梨県林政誌

---

- ▶ 以前は村有の山だと納稅義務があったが国有地であれば納稅しなくても良い。  
(国が国有地でも入山を認めていた)
- ▶ 官有地⇒御料地になった。明治22年
- ▶ 山梨県は水害が多くあった。(明治時代)  
⇒復旧のために当時は日露戦争の後だったので、災害復旧費用が捻出できない。  
提出経済会議⇒山梨県に御料地を瑕疵する＆済生会病院を作った。  
恩賜県有財産となった。
- ▶ 宮内省に陳情をした。(南都留郡瑞穂町村長:現下吉田) なぜ山梨県に? 元々  
村々で山を管理していたのであるから、村に返してほしい旨  
⇒自らの財産を自らで守りたい意志が強い。

# 歴史

---

- I. 軍部の台頭している時（2・26事件）
- II. 岳麓開発⇒甲州財閥に声をかけて、富士急行線ができた。
- III. 戦後演習場が米軍に接収された⇒安保
- IV. 田辺知事は演習場を全面返還しリゾート地にしたい。演習場は県の火薬庫⇒しかし施用返還に・・・米軍のものを自衛隊利用に変えた。
  
- V. そのような時代背景のなか組合はどのように？？⇒国際コモンズ学会しかしコモンズが住民に伝わらない。
- VI. 木のある生活の提案を！⇒そのうちの1つがペレット。薪派とは・・・

# 恩賜林組合

- ▶ CLTの推奨。県産材を使ったCLTは県外の持つていてそれを再入荷して利用する方がコスト減
- ▶ ここではCLTでは無くブレットシュタッペルを製造している
- ▶ 法政大学の先生と、ブレットシュタッペルの研究
- ▶ 富士山の木を使った木育⇒行政はあまり着目していない



ブレットシュタッペル

# 質疑（林業）

---

## 質問

- A) 富士山の木はなくならないか？
- B) 放射性物質は？
- C) 勾配は？
- D) 植林・伐採の計画は？
- E) 間伐材の他の利用方法

## 答弁

- A) 造林をしているので木がなくなることはない
- B) セシウムの含有は基準値以下なので利用する際も問題ない
- C) 県と組合の共有の木。県75、組合25なので自由に切ることはできない。勾配が少ないので伐採しても出しやすい
- D) 県と組合で計画をし、それに基づいて伐採していく。
- E) 地域では、広葉樹が育ちづらい。現在カラマツ、ミズナラなどを植樹しているが、カラマツがメイン。鹿被害がないので。1つの木から用材、ペレットなど物によって加工方法を変える。

# 質疑（恩賜林）

---

## 質問

- A) 恩賜林問題は県に県有財産として100億入ってくる認識で？
- B) その100億円はどの予算に？
- C) 国の補助は何対何？
- D) 組合の貯金は？

## 答弁

- A) 県下に100億入るという認識。
- B) 県はその金額は特別会計に入っている。
- C) 約50%が組合に入る。元々組合管理出会った場所に演習場が入ったため。2重賃貸しているので、県から入ってくる。⇒県有地は北麓の物ではないので50%で十分
- D) 16億くらい。

# 質疑（木質バイオマス）

---

## 質問

- A) ペレットコストは？
- B) 工業的なボイラーとして使えるか？
- C) ペレットの販売は？
- D) 稼働率は？

## 答弁

- A) 灯油とランニングコストは変わらない。
- B) 火力は十分出せる。
- C) 1市2村だけに分配なので、市内の業者から買ってくれ。
- D) 1割程度。批判は多いが政治的理由もある

# 恩賜林より提案

---

世界遺産なので、5合目の施設の暖房は  
『ここから目に見える木で温めている』  
と言いたい。 (ペレット利用)

が…

県は水素を使いたい

# 恩賜林の目指す方向性

---

コンセッション方式を採用していきたい  
(おもちゃ美術館?)



民間活力の導入

# 総括

- ▶ 北麓地域には“遊ぶ”場所“見る”場所は多くあるが、“知的”な施設が少ない。
- ▶ 入会という環境をどのように整備していくか。  
入会文化 자체が、保守的な印象があるが、（【世界遺産反対】など）この背景には統制をしてみんなで分け合う文化としての継承をしている。
- ▶ コモンズ学会にてノーベル賞を受賞のオストロムさん。と同様、基本資本主義ではあるが、その中で共生、協力していく形が入会文化にはすでにできている。

